

平成22年度 JCOMM賞の受賞者発表



JCOMM実行委員会では、平成22年4月9日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、マネジメント賞2件、プロジェクト賞1件、デザイン賞1件、技術賞1件をそれぞれ平成22年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第五回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

JCOMM AWARD マネジメント賞

■「神戸におけるESTモデル事業」

(神戸市TDM研究会、神戸市EST協議会、KOBEST2007実行委員会、かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト神戸)

■「松江3M (Matsue - Mobility - Management) - 「ひと」「まち」「地球」の縁結び」

(松江市公共交通利用促進市民会議・国土交通省(松江国道事務所調査設計課・島根運輸支局輸送課)・島根県(交通対策課)・松江市(地域・交通政策課、都市計画課・交通局)・一畑電車(株)・一畑バス(株))

JCOMM AWARD プロジェクト賞

■「当別町地域公共交通活性化再生事業」

(当別町地域公共交通活性化協議会、(有)下段モータース、(社)北海道開発技術センター)

JCOMM AWARD デザイン賞

■「仙台市内及び近郊8大学交通情報マップ」

(仙台市、仙台白百合女子大学、東北学院大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学)

JCOMM AWARD 技術賞

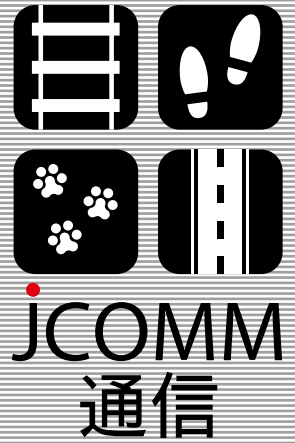
■「熊本電鉄の利用促進のための一連のMM施策とその有効性の評価」

(受賞研究業績＝溝上章志、橋本淳也、末成浩嗣:利用実態調査による利用促進を目的としたMM施策の有効性評価、土木学会論文集、66(2)、pp.147-159、2010他)
(溝上章志、橋本淳也、橋内次郎、末成浩嗣)

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。
各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.jcomm.or.jp/>)

七月三十日(金)、七月三十一日(土)に広島県福山市まなびの館ローズコムで開催される第五回JCOMMまで、あと、一か月となりました。

前回に引き続き地方都市での開催となります今回も、七十二編の発表申し込みをいただいています。下記の通り、プレイベント、オープニングセッション、ポスター・口頭発表など多彩なプログラム構成となっております。また、昨年度と同様に、今年度のJCOMMは、土木学会CPD(継続教育)プログラムとして申請し、認定を受けました(両日参加の



日本モビリティ・マネジメント会議
ニューズレター

Vol.16 ● 2010.6.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニューズレター編集部
【お問合せ】 京都大学 藤井研
筑波大学 都市交通研

mail: info@jcomm.or.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

場合(1.3.2単位)。

ぜひ(参加の上、MMの情報交換の場として)活用ください。

参加申込方法

1)氏名、2)所属・勤務先、3)連絡先(住所・Eメールアドレス)を明記の上、事務局まで。

(jcomm5th@jcomm.or.jp)

▼参加申込締切 七月九日(金)

▼参加費無料(資料代三千元)



第五回 JCOMM in まなびの館ローズコム プログラム

● 1日目 7月30日(金)

09:30-	レジストレーション
10:00-12:00	開催地企画 地域との連携によるMMの定着 主催＝福山市・(株)福山コンサルタント
13:00-14:50	オープニングセッション 開会挨拶・基調講演・JCOMM賞各賞授賞式 ・基調講演者：森雅志(富山市長)、 カール・ハインツ・ボッシュ(欧州MMプラットフォーム幹事長)
15:00-16:00	ポスター発表A(18編)
16:00-17:00	ポスター発表B(18編) ポスター発表A・B時間中、平成22年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。
17:00-18:00	口頭発表1(3編)MMの戦略的展開
18:30-	懇親会

● 2日目 7月31日(土)

08:30-	開場
09:00-10:00	口頭発表2(3編)職場MM
10:00-11:00	口頭発表3(3編)中心市街地活性化
11:10-12:10	口頭発表4(3編)MM教育
13:10-14:10	口頭発表5(3編)地域公共交通の活性化
14:10-15:10	ポスター発表C(18編)、口頭発表ツール展示
15:35-16:35	口頭発表6(3編)MMにおける多様な可能性
16:35-16:55	クロージングセッション

開場時間中、平成22年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

※ポスター発表、口頭発表の詳細は、JCOMMのHPをご参照ください。(http://www.jcomm.or.jp/)

ニッポンのMM

第十三回

福山市のMM

一 昨年の京都での第三回 JCOMM を「大都市における MM」、昨年の大分での第四回 JCOMM を「地方都市における MM」と捉えるならば、福山市も

当然「地方都市」となるため、違ったテーマで実施したいと考え、今回は「地域との連携によるMMの定着」を開催地企画のテーマとさせていただきます。皆さまと意見交換が出来ればと考えてみました。

さて、MMを一過性のものでなく、持続可能なものとするためには、「地域との連携」が不可欠であり、福山市のMMの取組みにあたりまして、この「地域との連携」には特段に重きをおいて取り組んで参りました。

まず、福山市のMMの主軸である『ベスト運動』(会員制の通年的なノーマイカー運動)については、主役は当然「住民の皆さん」ということですが、運動を地域に広げていく。パートナーとして、地域のコミュニティFMと連携しました。この連携により、会員拡大とあわせて、コミュニティFMが実施中の会員特典を運動参加者にも提供することが

でき、「参加する楽しさ」を会員の皆さんに付与することが可能となりました。この結果、会員数は現在16,000人に達し、皆さんが月に1回ノーマイカー運動に参加することで約7,000トン(平成19年度)のCO2を削減することができました。

また、福山市では、運動を本当の意味で持続可能なものにするために、情操教育的な観点も必要と考え、小学校TFPにも取り組んできました。どういったテーマや構成(時間割)・教材であれば、年間教育課程(シラバス)の中に取り入れやすいか?各回の授業で配慮すべきことは何か?といったことを、市内小学校の協力により、実際の授業を通じて取り組むことができました。また、TFPの成果を児童たちが発表することによって、地域住民への訴えかけが実現するといった思いもよらない効果も得ることができました。



▲小学校 TFP の様子

今回の第五回JCOMMでは、七月三十日に市内小学校の児童の皆さんが、学習成果を発表する予定となっております。是非、ご来福いただき、児童たちの熱い思いを受け取っていただければと思います。

福山市・荒平信行

イベント報告

欧州モビリティ・マネジメント

会議報告

第14回欧州モビリティ・マネジメント会議(ECOMM)が、オーストリアの世界遺産都市、グラーツにて開催されました。この会議では、欧州を初めとする世界の各地域から、計313人の参加者が

ありました。筆者が参加した印象的なセッション、「Shared Space(SS:共有空間)」について報告します。SSとは、オランダの交通専門家ハンス・モンドルマンが提唱したコンセプトで、信号や標識を撤去し、道路という公共空間で相手への配慮意識を高めることを目指す取り組みで、欧州では非常に注目され、EUのプロジェクトともなっています。

オーストリアのGleinstättenの事例では、道路の両側に小学校の施設(写真1)があり、道路を横切る子ども们的安全性や、コミュニティスペースとしての活用を考えて、2008年4月よりSSの検討が始められました。ラフ案(写真2)の作成や、合意形成のためのワークショップや関係者へのアンケートなどを経て、現在は具体的な設計段階にあるようです。



写真1 道路の両側の小学校施設



写真2 ラフ案(写真1と同アングル)

移動する人々の間のコミュニケーションを大切に、というSSの思想は、MMの目標とも合致するものと感じました。我が国での実現可能性についても、今後、模索していきたいと思えます。

※2010年8月3日、SSの国際セミナーを開催いたします。ご興味をお持ちの方は、筑波大学の谷口綾子(aniyachika@tsukuba.ac.jp)まで。

JCOMM法人会員紹介

Vol.2 社団法人日本バス協会

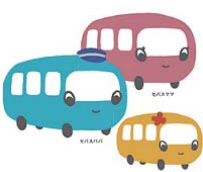
社団法人日本バス協会では、「安全安心なバス」「人と環境にやさしいバス」「便利で快適なバス」をアピールし、バスの利用促進を図り、身近な公共交通機関として親しんでいただくため、次のモビリティ・マネジメントの取組みを行っています。

平成21年1月に「バス利用促進」の一環として、車両前面にバスマスクを掲げ広報活動を全国展開し、乗合バス約30,000台に掲出いたしました。

21年9月20日バスの日においては、

る予定です。

モビリティ・マネジメントによりマイカー利用から公共交通機関に移転させ、都市部の交通総量を抑制することは、環境対策の観点からも、都市活性化の観点からも重要ですので、今後とも公共交通機関としてバスの利用促進を目指して活動してまいります。



セバスファミリー